

学都屋台食談

第4回 菱機工業株式会社
代表取締役社長 北川雅一朗氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月15日から11月25日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で14年目を迎えた食談で、講師の方々が語ったメッセージを紹介します。

RYOKI

菱機工業株式会社

海外に目を向け、足を運び、自分の視野を広げよう

高名な経済政策学者の竹中平蔵さんが、折々にこういう言葉を説いています。「川を上り、海を渡れ」。

「川を上り」は歴史をさかのぼって見識を深めること。「海を渡れ」は海外に目を向けて視野を広げよという意味合いです。今回、私が特に皆さんに訴えたいのは、後者の「海を渡れ」についてです。

皆さんは、例えば夏休みなどを利用して、海外に出る機会がありますか？もし留学をするチャンスがあるなら、それをぜひ生かしてください。さまざまな体験や経験が待っています。実際に海外に渡って、直に見聞できれば、これ以上の方法はないでしょう。

私は高校時代に1年間、海外留学をしたほか、米国のボストンにある大学の大学院で2年間、学びました。振り返ると、こうした異国の地での経験が、私のその後の人生を大きく変えたと考えています。

コミュニケーションを通して考えをブラッシュアップ

向こうでは、自分の存在を常にアピールしなくてはなりません。日本人はおくゆかしい、謙虚とよく言われていますが、そうした日本の美德は、残念ながら海外では全く通用しません。競争の中で埋没し、見向きもされなくなってしまう可能性があります。

私が米国で出会った学生の中に、「自分はスキーがうまい」と主張する人がいました。でも、実際にスキー場に行くと、八の字のボーゲンレベルで、お世辞にもうまいとは言えない。それでも彼は、「うまい」と自分をアピールすることで、グループの中で存在感を示していました。

私も最初は、向こうで生きる術となる英語をうまく操れないので苦労しました。しかし、英語でのコミュニケーション能力を身につけると、現地ではもちろん、日本に戻って就職してからも大変役に立ちました。

皆さんは、いざ社会人となって仕事をしたいと思いますが、どんなビジネス、職場でも、人

仕事の目的は「人のため」にある

と人の交わりが不可欠です。いろんな人と会話をし、交流していく中で、自分の考えをブラッシュアップしていくことができます。海を渡ることは、そうした能力を身につけるにはうってつけの方法だと考えます。

プロフェッショナルとしての職業観を養おう

ところで皆さんは、仕事は何のためにすると思いますか？お金のため、家族を養うため、生きがいのため、自分の夢を叶えるためなど、十人十色でしょう。

私は「人のため」「人が必要とする価値のため」にあると考えています。多くの若者が憧れ、活躍次第で億単位の年俸をもらえるプロ野球選手も、実のところは観戦者のために試合をしているのです。

成功している経営者の共通点も、目指すところが人や世の中に向いています。小口宅配便のサービスと普及させたヤマト運輸の小倉昌男さん（故人）、24時間営業のコンビニエンスストアを日本に根付かせたセブン・イレブンの鈴木敏文さんは、共に世の中を変えようとの強い決意のもと、国の規制や社内での反対の声と闘い、多くの人に役立つサービスを実現しました。

皆さんも、いざ就職することとなりますが、そうしたプロフェッショナルとしての職業観を持つておくことは、とても重要だと思います。



講師

菱機工業株式会社
代表取締役社長

北川 雅一朗氏

きたがわ・まさいちろう

1967年、新潟県生まれ。94年にポストン大学大学院を修了し、野村総合研究所へ。2000年からは外資系のPwCコンサルティングに勤務。01年10月に菱機工業入社。経営企画室長、取締役を経て、04年12月から現職



参加生

前列左から佐竹悠さん(金沢医科大学4年)、南部陽美さん(金城大学4年)、後列左から、釜良輔さん(北陸大学2年)、川西発之さん(金沢大学大学院2年)、鶴崎創士さん(金沢工業大学3年)